

現場日記 平成20年10月20日（月）

■ジャケット製作ヤード1周年

現場日記（平成19年10月25日号）でご紹介しました第1号の組立を完了してから、もうすぐ1周年を迎えるジャケット製作ですが、本日はそのうちの1箇所である富津ヤードの現状をご紹介します。

富津ヤードでは、全198基中106基（予定）の栈橋用ジャケットの上部ジャケットと<sup>1</sup>下部ジャケットの<sup>2</sup>一体化を行っています。10月16日時点で38基が完成し、引続きジャケットの製作を実施中です。

※1 下部ジャケットとは、ジャケットの脚の部分です。（写真-3参照）

※2 一体化とは、全国各地で作られた上部ジャケットと富津で鋼管を組立製作した下部ジャケットを合体させることです。



製作中のジャケットが並んでいます。富津ヤードでは、7基分の一体化をするスペースがあります。

写真では、5基の一体化したジャケットが確認できます。写真は、完成したジャケット上（地上35m）から撮影したものです。



北九州で製作された上部ジャケット2基（最大2,200t）を台船から専用のドーリーで水切り（陸揚げ）している状況です。青く見えるのがドーリーで富津ヤードでは1台25.9mのドーリーを6台使用してジャケットを移動します。また、ドーリーにはジャッキが付いており地面に起伏があってもジャケットを水平に保つことができます。



下部ジャケットの組立を行っている状況です。所々にある白いシートで覆った箱は、鋼管同士を溶接している場所で風雨による影響を少なくし、溶接の品質を確保します。



写真の中央に写っているのが、平成19年10月25日の現場日記でもご紹介しました下部ジャケットに上部ジャケットを載せる専用クレーンです。最大約1,100tの上部ジャケットを吊り上げることができます。

※10月より新任で着任しました。読者の皆様に新鮮な情報をお伝えできるよう精進してまいりますので、よろしくお願い致します。（S）